



「名城大学 新型コロナウイルス対策研究プロジェクト」 薬学部の 2 件を選定 独自の変異株識別法の発展、粉末製剤の治療薬開発

新型コロナウイルス感染症との闘いが世界中で続いています。2020 年度に創設された「名城大学 新型コロナウイルス対策研究プロジェクト」に 2021 年度も薬学部の 2 件が選定されました。

神野透人教授（衛生化学、**写真上**）が代表の「新型コロナウイルス SARS-CoV-2 の変異株スクリーニングの検査方法としての実用化に向けた高解像度融解曲線分析を利用した試験法の開発」と、奥田知将准教授（薬物動態制御学、**写真下**）が代表の「在宅 COVID-19 治療を実現する吸入 siRNA 粉末製剤の開発」です。

神野教授は 2 年連続の選定です。高分解能融解曲線 (HRM: high resolution melting) 分析という、全国的に注目される変異株識別法を総合的なシステムとして確立させることを目指しています。米澤弘毅理工学部情報工学科准教授の参加を得て、機械学習を利用した HRM 法の精緻な解析手法の開発を目指します。神野教授は「総合大学としての強みを発揮し、これまでのプロジェクトをさらに発展させたい。新型コロナウイルス感染症流行の第 6 波を抑えたい」と意気込みを語ります。

奥田准教授は、ドラッグデリバリーシステムを研究してきました。同感染症に対する在宅治療の確立に向けて、核酸医薬品の small interfering RNA (siRNA) に着目し、吸入剤としての臨床応用に適した物性・機能を有する siRNA 粉末製剤の開発を目指します。奥田准教授は「この粉末製剤が開発できれば、患者は軽症の段階で在宅のまま使える。名城発・日本初の新薬開発につなげたい」と意欲を示します。

※2020 年 9 月 28 日発出の『「名城大学 新型コロナウイルス対策研究プロジェクト」に薬学部の 2 件を選定』の続報です。

【研究に関するお問い合わせ先】

神野 透人（ジンノ ヒデト） 薬学部薬学科 教授 E-mail: jinno@meijo-u.ac.jp

奥田 知将（オクダ トモユキ） 薬学部薬学科 准教授 E-mail: tokuda@meijo-u.ac.jp

